

公開講演会

近世ヨーロッパにおける 傭兵の回遊と社会の負担

日時

2019年 **10**月 **26**日(土) 14:00～17:30

会場

戸山キャンパス **39**号館 **6**階 第**7**会議室

講演者

河野 淳(広島修道大学経済科学部准教授)

講演者プロフィール

ウィーン大学大学院博士課程を修了(Ph.D)。専門は近世ヨーロッパ史。著書に『ハプスブルクとオスマン帝国』(講談社選書メチエ、2010年)、共編著『ハプスブルク史研究入門』(昭和堂、2013年)、論文に「近世ヨーロッパにおける傭兵制の分割と厚生の変化」森原隆編『ヨーロッパの政治文化史 統合・分裂・戦争』(成文堂、2018年)などがある。2012年4月より広島修道大学経済科学部准教授。

中世後期から17世紀中頃まで、ヨーロッパ諸国は傭兵を雇って戦争を行い、戦争が終わると傭兵を解雇した。解雇された傭兵は次の仕事が見つかるまで各地を回遊し、略奪を働いた。17世紀中頃から各国が常備軍を創設するようになると、傭兵は常備軍に吸収され、回遊と略奪は減少していった。本講演では、解雇された傭兵が回遊、略奪していたことの意味を財政的な観点から考察し、さらに回遊の減少が社会の負担をどのように変化させたかを、物理的強制の独占に関する経済理論を用いて論じる。

§ プログラム §

14:00～14:10 開会挨拶

14:10～15:10 講演「近世ヨーロッパにおける傭兵の回遊と社会の負担」(河野淳)

15:10～15:30 休憩

15:30～17:30 討論

*司会：谷口眞子（早稲田大学文学学術院）

*共催「軍隊と社会の歴史」研究会、基盤研究(A)「19世紀を中心とした軍事的学知をめぐる人と書物の交錯」

主催・問合せ



WIAS

早稲田大学 高等研究所

入場無料・事前申込不要 直接会場にお越しください。